

夢窓幼稚園通信 26号

2014年 6月 30日

「さかなが ごはん ほしいって いてるよ！」

「さかなに ごはん あげたい」 ……と、言いにくる子がよくいます。

確かに 池の横を 通りかかったり、その近くにしばらくいると、次々にやってきて 口をパクパクさせますから、そう思うのもよく分かります。

魚たちは いつも 何を考えているのだろうか？と、思います。子どもたちが言うように「ごはんが たべたい たべたい」と、思っているのでしょうか。

それでは お腹がいっぱいのはきは、池の底の方で何を考えているのでしょうか ……？

ふ 「なにを ゆめみて いるのかな？ あじさい …… あめの なかで やさしい かおたよー」と

子どもたちのうたう歌があります。煙るような雨の中 どこか ほわっと 包まれるような空気の中に 溶け込むように、しかし あざやかな赤紫、青紫のあじさいは、実に 夢見ているような気がします。その葉っぱの上に 坐っていた「かたつむり」も、まさしく夢見ているでは ありませんか！

あじさいも かたつむりも、まどろむ空間の中でまどろむ時間をもっているのだと思いました。

そうか、もしかすると 池の底のお腹がいっぱいの魚もまどろみながら、何か 夢見ているのかもしれない。そんなふうに見えてくると、周りの誰もが、何かを願い何かを夢見ているように思えてきました。

年長さんが一人ずつ蒔いた小さな種も、土の中でまどろみながら花になって咲くことを夢見ています。あのインコたちも、石の下の小さなダンゴムシも、井戸の下の白い石ころも、大きなイチョウの樹も……！

「存在する」ということは、「変化しようとしていること」でもあるのですが、「変化しよう」と願い続けるまどろみの時間、夢見る深い時間をもち続けているということなのですね。

私たちは目まぐるしいような、次々と移りゆく時間の中を、かなり忙しく生きています。しかし、同時に自分たちを支え、生かし、可能性を求め続けさせてくれる、まどろみ夢見る時間の中をも生きているのです。魚の夢を、かたつむりの夢を、小さな種の夢を……私たちが夢見ることができるとき、そこにつながる何千年、何万年……の時間と結びつくことができるのかもしれない。

今年も雨の季節から夏へと時が移っていきます。

ギリギリの時代の中で、私たち一人ひとりが、刻々と進んでいく時間を生き抜きながら、そこにからめとられることなく、「存在」の世界を貫いて深いところを脈々と流れている、まどろみの時間・夢見る時間を大切に感じることができるよう！そしてそこに響いているものを、よろこびの中で聞きとることができるよう！

私たちの時間の感覚こそが、世界のひとつひとつ、一人ひとりの存在の根拠を、そして私たち自身を守ることができる力としてあるのだと思います。

私たちの今年の7月がやってきます！ねっ。



園長 升光 泰雄

